



Topics

- 診療科紹介 脳神経外科
- 第11回地域医療連携カンファレンス開催報告
- 地域医療・患者支援センターからのご案内
 - ・第77回地域医療連携セミナーのご案内

診療科紹介 脳神経外科

当院「脳神経外科」について

2023年4月より常勤の脳神経外科医が5名に増え、診療体制がより強化されました。特に脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）や頭部外傷は時間との勝負です。コンパクトで小回りが利く病院設計を活かし、迅速な救急車の受け入れ、診療が24時間365日可能となりました。屋上にはヘリポートも完備していますので、遠方への移送、受け入れもできます。

また従来から行っていた脳血管障害や脳腫瘍、外傷、水頭症、三叉神経痛、顔面痙攣、外傷などの診療に加えて、この春からは脳血管内治療指導医が常勤となり、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、頸動脈狭窄症、頭蓋内外動脈狭窄症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍などに対する血管内手術（IVR）はいつでも施行可能になりました。検査、手術に用いる血管撮影装置（シーメンス社）も2023年に最新式に更新され、高画質な画像や高度な手技を可能にしています。2021年4月からはてんかん専門医によるてんかん外来を開設し、県内からの難治症例の診療拠点病院となっています。

専門外来のお知らせ

■脳血管内治療外来

毎週木曜日午前中（松原診療部長）

動脈瘤、血管奇形、頸動脈狭窄症、脳動脈狭窄症、慢性硬膜下血腫難治例等、いつでもご紹介下さい。

■てんかん専門外来

毎週木曜日午後（徳島大学 藤原医師）

シーメンス社
Artis zee i
バイブレン



脳神経外科領域の疾患

脳卒中

脳卒中・神経センターを開設し、脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血患者に迅速に対応しています。神経内科医2名（浦井医師、向井医師）と連携し、計7名の医師で毎週カンファレンスを開き、チーム医療で行っています。

脳梗塞は、内科的治療を基本としますが、発症から4.5時間以内場合tPA静注で、24時間以内の場合、血管内治療（血栓回収術）で閉塞血管を再開通させます。頸動脈が高度に細い場合には、緊急でステント拡張させます。術後は抗血栓薬やリハビリを早期に開始します。脳出血に対しては、まずは降圧し抗脳浮腫薬、リハビリを行います。血腫が大きく意識障害が強い場合には、開頭血腫除去術もしくはナビゲーション定位的血腫除去術、脳室ドレナージ術などを行います。くも膜下出血では、動脈瘤コイル塞栓術や開頭術で出血点をおさえる緊急手術で救命し、術後は新薬クラゾセンタンで血管攣縮の発生を予防します。未破裂脳動脈瘤でネックが広い場合には、ステント併用でのコイル塞栓術やフローダイバーター（パイプライン™）を使った血管内治療が適応になります。もやもや病は病期が進行し、症状がある患者さんでは側頭部の直接もしくは間接バイパス術を考慮します。

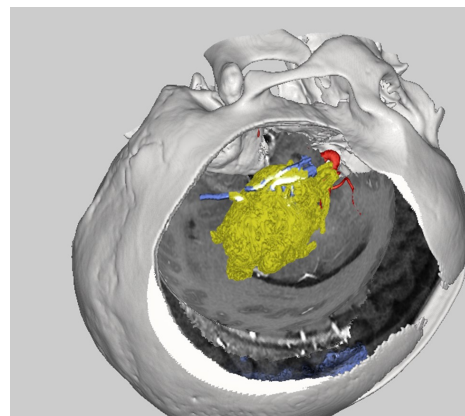


外傷

頭蓋内出血や脳挫傷などの急を要する場合はもちろんのこと、単純な頭部打撲、交通事故後の治療も行っています。小回りが利く病院ですので、CT・MRI検査もすぐに撮影できます。高齢者は慢性硬膜下血腫を後日発症することがしばしばみられますので、数ヶ月後までフォローアップします。特に抗血栓薬を飲んでいる方は発症率が高いのでより注意が必要になります。最近では、再発例には栄養血管の塞栓術を追加することもあります。

脳腫瘍

髄膜腫、神経膠腫、神経鞘腫、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍、悪性リンパ腫、胚細胞腫、海綿状血管腫など脳腫瘍には様々な種類が知られていますが、これらをCT、MRI、血管撮影、RI検査、髄液検査、血液検査などを駆使して診断を行います。摘出術が必要な場合には、術中ナビゲーションシステムを用いた精度の高い顕微鏡下手術を実施しています。また当院の電子カルテ画像システムにはVincentという画像再構成するソフトウェアが装備されており、いつでも見たい時に3D画像を作成し閲覧することができます。これを用いて手術前のシミュレーションが容易に可能となっています。また本年度には外視鏡機能のついた最新式手術顕微鏡への更新を予定しています。



頭部への打撲はたとえ軽くてもご家族は不安があります。必要に応じて当院へご連絡ください。またてんかん、奇形疾患、水頭症、脳腫瘍なども診療しております。当院は善通寺の四国こどもとおとなの医療センターと連携しており、より専門性の高い治療が必要な場合には紹介も可能です。

パーキンソン病や本態性振戦、ジストニアなどでは薬物治療が基本ですが、脳深部刺激術が有効なことがあります。脳卒中後などに手足がつっぱる痙縮は、内服薬以外にもボツリヌス療法も効果的です。またバクロフェン髄注療法(ITB)も効果的な場合があります。慢性難治性疼痛に対して脊髄に微弱な電流を流す脊髄刺激療法(SCS)が有効なケースもあります。認知症や歩行障害、尿失禁で発症する正常圧水頭症に対してはシャント手術(脳室-腹腔or腰椎-腹腔)が有効です。最近では設定圧を自由に何回でも変更でき、MRI撮影も可能となっています。

外来担当表	月	火	水	木	金
午 前 受付・診療／ 8時～11時	庄野 健児	手術・検査	佐藤 悠	庄野 健児	四方 英二
	白川 典仁		白川 典仁	松原 俊二 【血管内治療外来】	松原 俊二
午 後 受付・診療／ 13時～16時	新患のみ 要問合せ	手術・検査	新患のみ 要問合せ	新患のみ 要問合せ	新患のみ 要問合せ
				第3週14時～17時 【てんかん外来】 徳島大学医師 藤原 敏孝	

2021年4月より専門医によるてんかん外来が始まりました。てんかんの専門医は数が少ないため、脳神経外科や小児科、神経内科、精神科など様々な診療科が分担しており、専門的な治療が受けにくい現状があります。そのため当院では、四国で唯一のてんかん診療拠点機関である徳島大学病院よりてんかん専門医を招へいし、てんかん専門外来を開設することといたしました。毎月第三木曜のみで月に1回ですが、毎回香川県内から多くの患者さんが集まっています。お困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ一度ご相談ください。

てんかん外来

2023年
4月開始

てんかんは100人に1人の発症率と推定され、決して珍しくはない病気です。小児でも発症率は高くみられます。実は、こども神経科で「てんかん外来」を開設しました。

療育も大切ですが「医療的ケア（24時間）」の必要性、治療薬の副作用などの心配と不安を抱え、抱えこんでいる方が多いのではないかと感じています。

また、すでに大人と一緒か、別居で生活している方が多いのに、療育や医療的なことでよくわからない、医療機関の連携がうまくいかず悩んでいる方が多いのではないかと感じています。



てんかん外来

2023年
4月開始

みんなの病院 脳神経外科では、

オンライン診療（遠隔連携診療）を開始しました

てんかんの疑いがある患者さんには、診断が難しいかもしれません。オンラインでてんかん専門医（脳神経外科医）の診療を受けたいと思います。対象患者さんにはメールで、「紹介状」をご用意いたします。

患者さんの
メリット

- ① 遠隔でてんかん専門医の診断を受けたい
- ② 検査や治療について相談したい
- ③ 薬の副作用や副作用の心配がある方

医療者の
メリット

- ① 遠隔でてんかん専門医の診断を受けたい
- ② 検査や治療について相談したい
- ③ 薬の副作用や副作用の心配がある方

医師のメリット

- ① 遠隔でてんかん専門医の診断を受けたい
- ② 検査や治療について相談したい
- ③ 薬の副作用や副作用の心配がある方

当院では香川県初の試みとして、てんかんの疑いがある患者さんを対象に、徳島大学脳神経外科のてんかん専門医と連携し、2022年9月からオンライン診療を始めました。できるだけ早く専門医の診察を受けたい患者さんや、長距離の移動が負担となる患者さんは、お問い合わせください。

(文責 松原 俊二)